

廃棄米を紙に再生し、食品ロスに取り組む

株式会社ペーパー パル 奈良県奈良市

■廃棄米を使った紙素材「kome-kami」を開発

紙製品の企画・販売を手掛ける株式会社ペーパーは、1890（明治23）年の創業以来、130年に渡って日本の紙文化を支えてきた。同社は、2008年に森林を守るためのFSC（森林管理協議会）によるCoC認証（森林から産出された木材・紙製品の加工・流通過程の管理認証）を取得し、紙という循環可能な素材を社会に提供している。

2021年2月、同社は廃棄米を活用した紙素材「kome-kami」を開発した。全国の様々な工場に掛け合うところから始まり、試行錯誤を重ね約1年をかけてkome-kamiを完成させた同社後継者である取締役の矢田和也氏は「昔から“諦めなければどうにかなる”という考えが自分の中にあっただから続けられた。苦労の連続だったが、途中でやめようとは思わなかった」と当時を振り返る。

■SDGsへの取組みをアピールする素材として活用

kome-kamiは、企業や自治体が廃棄するアルファ化米、返品や異物混入があり食用では使えなくなったお米等を細かく粉砕してパルプに配合しており、古紙回収でのリサイクルも可能だという。採れたての艶やかなお米を思わせるナチュラルな色味と独特な風合いが特徴で、紙そのものも豊富な風合いに米の質感が加わり、しっとりとした表面が書き心地のよさを実現している。

クラウドファンディングを通してkome-kamiを使ったノートや名刺を販売したところ、目標金額を大きく上回る反響があった。これを機に、「食品ロスを無くしたい」「SDGsの考え方の循環型社会を目指したい」等の思いを持った企業や行政から問い合わせがあり、各メディアに取り上げられたこともあって、今では売り込みにいかなくてもよいくらいに各方面からの引き合いがあるという。「対外的に目に触れる封筒や名刺、ノベル

ティ等にkome-kamiが使われることで、各企業や団体がSDGsに取り組んでいることをアピールする素材になれば」と矢田氏は話す。

■コストを価値あるものに変える商品を提供する

kome-kamiは、京都の外資系ホテルのメニューやプラスチック製ファイルの代替品として大手メーカーに使用されるなど用途を広げている。また、2022年2月の東京ギフト・ショー新商品コンテストで大賞を受賞した煎餅メーカーのパッケージにも使われた。

同社はkome-kamiの売り上げの一部をフードバンク（まだ食べられるのに処分されてしまう食品を食べ物に困っている人に届ける団体）に寄付し、それらの活動を支援している。矢田取締役は、「クラフトビールを醸造する過程で廃棄となるモルト粕を用いたクラフト紙も製造している。廃棄コストを価値あるものに変換し、その素材を世の中に広め、食品ロスを完全に無くしたい」とサステナブルな未来を見据えている。

（八木陽子、村井 渚）



新たに開発されたパッケージ用途の厚紙素材「kome-kami カード紙」。kome-kamiのロゴマークが記載されている。

株式会社ペーパー

〒630-8445
奈良県奈良市池田町 76-7
奈良県総合卸商業団地
TEL: 0742-62-6211
FAX: 0742-62-5506
URL: <http://www.pepal.co.jp>



矢田和也 取締役